

短期大学部幼児教育保育科 幼稚園二種

【教員養成の理念】

本学は、学則で「教育基本法及び学校教育法による短期大学として、仏教の精神に基づき、職業に必要な専門教育をほど押し、教養ある有能な社会人を育成する」（大谷大学短期大学部学則第1条）ことを短期大学部の目的であるとしています。この仏教の精神に基づく職業に向けた専門教育というのは、まさに本学の保育者養成の理念でもあります。つまり、宗教的情操をもって、子どもたち一人ひとり、また保護者や地域の子育てに寄り添い、共感的に関わりながら、成長しつづける保育者の養成を目的とすることは、短期大学の目的に合致しています。

近年、少子化、待機児童、問題行動の低年齢化、発達に特色をもつ子どもの増加など、就学前の子どもたちをめぐる課題が山積しています。これらの課題に取り組むには、非常に高い専門性と人間力が要求されます。つまり、目の前の課題に取り組む際、その背景にどのような社会的、文化的、身体的、心理的な問題が存在するのか多面的に解釈するとともに、他の保育者、保護者、関係諸機関との協働も求められます。

このような専門性と人間力を獲得していくには養成課程における学びに加え、長い現場経験も必要です。しかし、保育者の離職率の高さも問題となっており、他の学校種と比較して経験年数の少ない保育者が多いという傾向にあります。本学では、幼児教育・保育現場に出てからも学びつづける姿勢や態度、現場での学びの基礎となる知識や技能、現場経験の意味を見出すための子ども観や教育観の基礎、人とともに成長するための共感性や協働性を培うことを目指しています。これによって、現場においても、子どもや保護者、他の保育者とともに生き、子どもの成長を喜び、自らの成長にも気づくことにつながり、それは長く勤めつづけるための力になると考えます。

【理念を実現するための教員養成の構想】

本学では、第三代学長佐々木月樵が示した本学の目標のうち、「三モットー」（本務遂行、相互敬愛、人格純真）に関して、共通科目として「仏教と人間（必修）」を設け、本学の建学の精神を伝え「宗教的人格の陶冶」を行っています。また、初年次教育の「学びの発見（必修）」では、全体授業と少人数授業を組み合わせながら、保育者として必要な基礎力と共同して活動する力を培う中で「三モットー」を実践的に学べるように配慮しています。この取り組みは、第2学年で行われるゼミナール方式の「仏教保育演習」においても引き継がれ、各個人のところでは「卒業研究」という自分なりのテーマに沿った論文の形でまとめられます。また、実践的には「保育内容 総合表現」の中でのチームの取り組みとして結実していきます。このように、2年間を通して「三モットー」が、各個人のレベルと同時に、他者とともに取り組む実践的な内容として身につけられるようカリキュラムが編

成されています。

また、幼児教育保育科では、教育実習、保育実習の指導に全教員が関わり、実習における体験をそれぞれの成長の軌跡として意味付け、持っている知識や技能、子ども観や教育観との関連付けやこれからの課題としてそれらを深化したり広げたりする作業を確認することを援助する体制を持っています。これによって、学び続ける姿勢や態度、学び続けるための方法論の習得を目指しています。同時に、教育について多角的に理解するための「教育原論」「教育制度論」「幼児教育・保育課程論」「教育方法論」、子ども理解のための「児童心理学」「発達心理学」「教育心理学」、子どもの育ちと幼稚園教育要領に示された保育内容について理解するための「保育内容」(各5領域および総論)、教育内容について深めるための教科科目「音楽」「図画工作」「体育」「国語」などを、実習体験との関連で学べるよう、授業内容やシーケンスに配慮をしています。

【学科として養成したい教員像】

本学は、親鸞聖人の仏教精神、学祖清沢・佐々木の建学の精神に基づいて、幼稚園教諭の養成に積極的に取り組んできました。幼児教育・保育実践においては、仏教精神に基づく宗教的情操とともに、子どもを人間の観点から理解しようとする姿勢や態度、子どもの発達に関する科学的知見をふまえ、一人ひとりの発達課題を見出し、それを保育内容や環境構成として計画したり関わったりする実践力、文化や自然の素晴らしさやおもしろさを感じ取り、子どもたちに伝えていくための感性や表現技術が必要であると考えます。また、子育て支援のニーズの高まり、特別な支援を必要とする子どもたちの増加といった現在の就学前教育をめぐる状況に対応しうる専門性も求められています。そして、幼児教育・保育は同僚と共に取り組んだり、他機関との連携したりする同僚性や協働性も必要です。

このような専門性と人間性の基盤は、「三モットー」を追究し、実践しようと試みる中で培われると考えています。「三モットー」の理念を実現する幼稚園教諭養成として、本学では、高い保育者としての意識と責任感を持ち（本務遂行）、人格的な相互信頼をベースとした同僚性と実践的なコミュニケーション能力や対人関係能力を備え（相互敬愛）、いのちの共生を喜び慈育の精神に富む人間味あふれた（人格純真）教員の養成をめざしています。つまり、人の育ちに関わる仕事に就いていることに誇りと責任感を感じながら日々の保育実践に取り組むことができる保育者、そして信頼関係にある仲間とともに、一人ひとりの子どもに寄り添い、その子どもが生き生きと環境と関わり成長することを援助できる、また保護者等とも、成長の喜びを分かち合い、支援することのできる保育者を送り出したいと考えています。そして、自らの成長を長いキャリアの中で捉え、成長し続ける保育者の養成をめざしています。